

【専門科目】（教科教育専攻・国語教育コース）

（令和2年度入試の問題）

試験問題は、「教科教育に関する問題」と「教科専門に関する問題」から構成されています。すべてに解答しなさい。

解答は、問題用紙に直接記入しなさい。

専門科目（教科教育に関する問題）

一、次の①から⑤の中から三つを選び、簡潔に説明しなさい。なお、選んだ項目の記号を（ ）内に書き入れて解答すること。

- ①垣内松三 ②PISA型読解力 ③単元学習 ④西尾・時枝論争  
⑤生活綴方

（ ）

（ ）

（ ）

二、今日の「辞書を使った学習指導」についてあなたの考える課題を一つあげたうえで、その課題を解決するような国語科の単元を一つ構想し、その単元名、目標、内容、方法を示しなさい。

課題

単元名（小・中・高および学年を記すこと）

目標

内容（教材、話題・題材など）

方法（具体的な学習活動など）

第一問（日本文学領域）

（一）次の文章は、『源氏物語』帚木巻、雨夜の品定めと呼ばれる場面で、左馬頭が自らの経験を語る  
ところである。読んで後の間に答えよ。

「よろづに見だてなくものげなきほどを見過ぐして、人数なる世もやと待つ方は、いとどのどかに思ひな  
されて、心やましくもあらず。つらき心を忍びて、思ひ直らむを見つけむと、年月を重ねむあいな  
頼みはいと苦しくなむあるべければ、かたみに背きぬべきさみになむある」とねたげに言ふに腹立た  
しくなりて、憎げなることどもを言ひはげましはべるに、女もえをさめぬ筋にて、指ひとつを引き寄せ  
て食ひてはべりしをおどろおどろしくかこちて、「かかる傷さへつきぬれば、いよいよまじらひをすべ  
きにもあらず。辱めたまふめる官位、いとどしく何につけてかは人めかむ。世を背きぬべき身なめり」  
など言ひおどして、「さらば、今日こそは限りなめれ」と、この指をかがめてまかでぬ。

問一 左馬頭と言い争っている女の言い分を説明せよ。

問二 二重傍線部分「いよいよ」と、「いとどしく」の、意味の違いについて説明せよ。

（二）幕末期から明治初期にかけての日本文学史の継承と断絶とについて、具体例を挙げつつ説明せよ。

（裏面解答可）

第二問（日本語学領域）

話しことば・書きことばについて、次の問に答えよ。

（一）話しことばと書きことばの違いについて、具体的な語の例をあげながら説明しなさい。

（二）中学校一年生に対して、話しことばと書きことばの違いについて、どのような場面や文体の例を挙げて、どのように説明・指導するのがよいと思うか、あなたの考えを述べなさい。

（裏面解答可）

### 第三問（中国文学領域）

次に掲げるのは、韓愈の「送王含秀才序」である。この文章を読んで、後の問に答えよ。

〔1〕吾少時誦<sup>1</sup>醉鄉記、私怪隱居者無<sup>2</sup>所累於世、而猶有<sup>3</sup>是言。豈誠旨於味邪。及<sup>4</sup>誦阮籍・陶潛詩、乃知<sup>5</sup>彼雖<sup>6</sup>偃蹇不<sup>7</sup>欲<sup>8</sup>與<sup>9</sup>世接、然猶未能<sup>10</sup>平<sup>11</sup>其心、或為<sup>12</sup>事物是非相感發、於<sup>13</sup>是有<sup>14</sup>託而逃<sup>15</sup>焉者<sup>16</sup>也。若<sup>17</sup>顏氏子操<sup>18</sup>瓢與<sup>19</sup>簞、曾參歌聲若<sup>20</sup>出<sup>21</sup>金石。彼得<sup>22</sup>聖人而師<sup>23</sup>之。汲汲每若<sup>24</sup>不<sup>25</sup>可<sup>26</sup>及。其於<sup>27</sup>外也固不<sup>28</sup>暇、尚何翹彙之託、而昏冥之逃邪。吾又以為<sup>29</sup>悲<sup>30</sup>醉鄉之徒不遇<sup>31</sup>也。建中初、天子嗣<sup>32</sup>位、有<sup>33</sup>意<sup>34</sup>貞觀・開元之不續。在廷之臣、爭言<sup>35</sup>事。當<sup>36</sup>此時、醉鄉之後世、又以<sup>37</sup>直廢。吾既悲<sup>38</sup>醉鄉之文辭、而又嘉<sup>39</sup>良臣之烈、思<sup>40</sup>識<sup>41</sup>其子孫。今子之來見<sup>42</sup>我也、無<sup>43</sup>所<sup>44</sup>挾、吾猶將<sup>45</sup>張<sup>46</sup>之。況文與<sup>47</sup>行、不<sup>48</sup>失<sup>49</sup>其世守、渾然端且厚。惜乎吾力不能<sup>50</sup>振<sup>51</sup>之、而其言不<sup>52</sup>見<sup>53</sup>信<sup>54</sup>於世<sup>55</sup>也。於<sup>56</sup>其行<sup>57</sup>、姑與<sup>58</sup>之飲<sup>59</sup>酒。

問一 傍線部分（1）「吾少時誦醉鄉記、私怪隱居者無所累於世、而猶有是言」を現代語訳せよ。

問二 傍線部分（2）「乃知、彼雖偃蹇不欲與世接、然猶未能平其心、或為事物是非相感發、於是有所託而逃焉者也」を書き下せ。

問三 傍線部分（3）「姑與之飲酒」とあるが、なぜ「飲酒」したのか、本文全体を踏まえて答えよ。

（裏面解答可）